

3 両国地域の特性

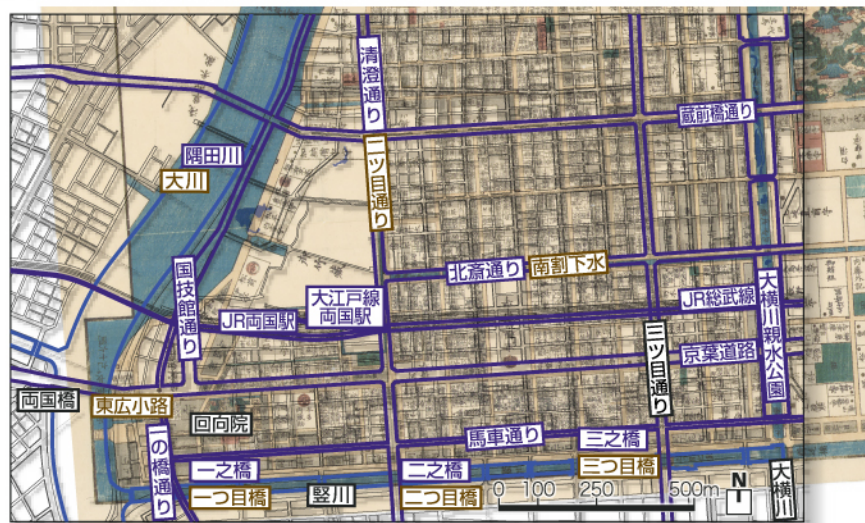
両国地域のまちの構造と資源

両国地域のまちの構造、まちを構成する要素を整理し、地域特性を分析します。

江戸を受け継ぐまちの骨格

江戸と現在の地図を重ねると、隅田川と縦横に走る通りや掘割による骨格の上に、現在のまちが形作られていることがよくわかります。明暦の大火を機とした両国橋の架橋と、無縁仏の冥福に祈りを捧げる回向院の創建によって両国のまちは開花しました。両国橋界隈は、鎮魂から始まった両国川開きの花火や、回向院で興行された勤進相撲、また北斎に代表される浮世絵等の江戸文化の発信地として賑わいにあふれていました。

明治に入ると、河川に囲まれた好立地と、武家地の町割を生かし、工業のまちとして発展しました。関東大震災、東京大空襲による焼け跡にもやがて町工場が再建され、今に継承されるものづくりのまちとして復興を果たしています。

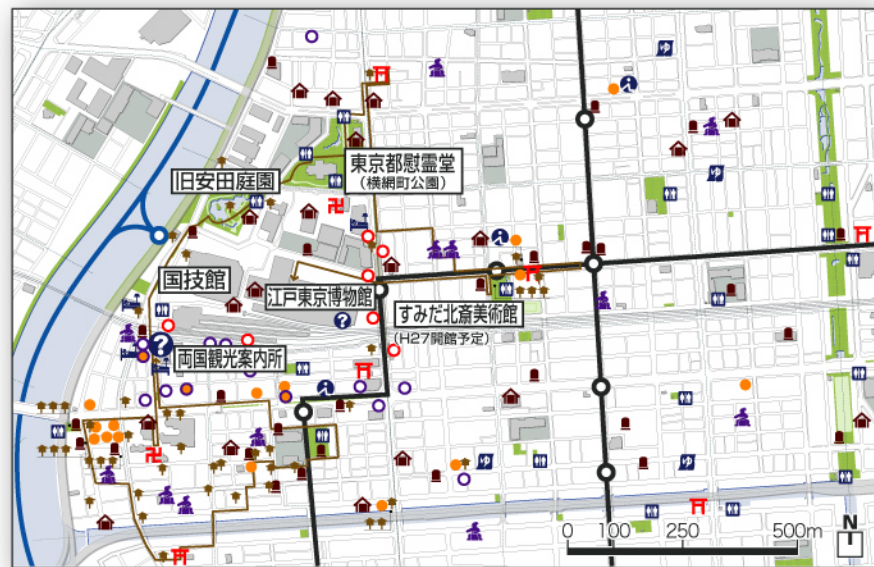


- 凡例
- 江戸の町割
 - 現在の街区構成
 - 江戸期の名称
 - 現在の名称
 - 共通の名称
 - 現在の主要交通網
 - 現在の河川
 - 現在の水辺(池等)

※江戸の町割の現代への継承を表すイメージ図です。
ベース古地図出典：「嘉永新編本所絵図」尾張屋板 安政2年(1855)刊(墨田区緑図書館蔵)

観光資源に恵まれたまち

両国地域には、国技館や江戸東京博物館等大規模観光施設とともに、文人や武士の屋敷跡の歴史公園や史跡・名所等を記した高札案内、相撲にちなんだ商店や江戸を受け継ぐ飲食店、伝統工芸や地場産業を発信する小さな博物館・工房ショップ等、まち歩きを愉しむことができる資源が散在しています。



- 凡例
- 河川・水辺(池等)
 - 公園
 - トイレ
 - 区内循環バスルート
 - 水上バスルート
 - まち歩きルート
 - 駅出入口
 - 観光案内施設
 - 街あるき案内処
 - 宿泊施設
 - 寺院
 - 神社
 - 工房ショップ
 - 小さな博物館
 - 資料館
 - 史跡・名所
 - 歴史案内高札
 - 相撲部屋
 - 公衆浴場
 - 相撲関連商店
 - 老舗飲食店等

両国地域の特性

両国地域の特性は、以下の3つのキーワードに表すことができます。「隅田川と水辺」、「文化とものづくり」は、両国の人々の「暮らしと賑わい」によって支えられています。

1 隅田川と水辺

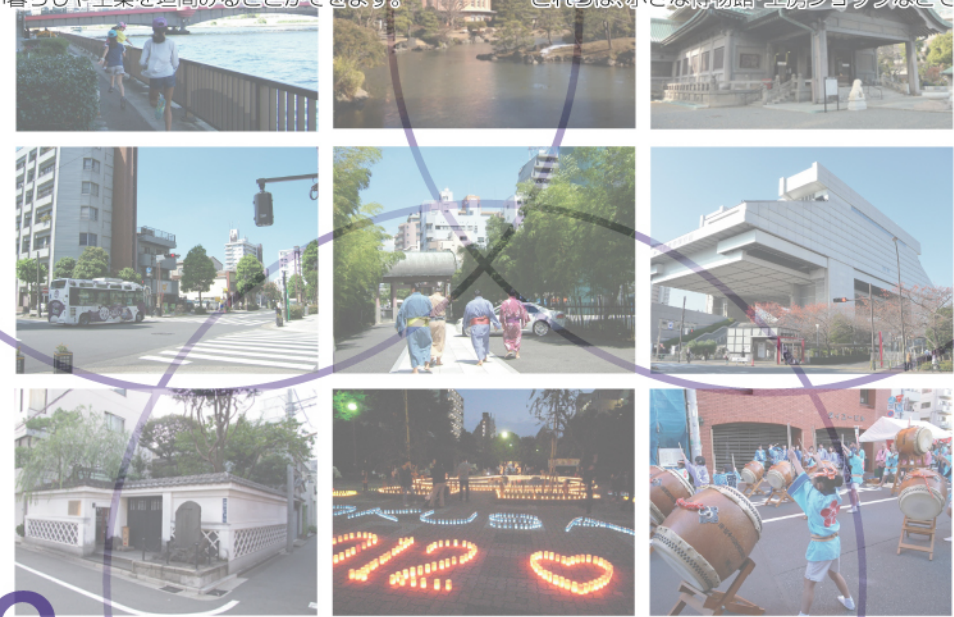
時代を超えて、地域を超えて人々の交流を促し、私たちの暮らしを支えてきた大動脈としての隅田川。そして、日々の暮らしに身近に寄り添う堅川などの水辺は両国エリアに潤いをもたらしています。

隅田川…古くは大川と呼ばれた隅田川には、現在は隅田川テラスや水上バス乗り場が整備され、両国橋は、今も昔も、両国地域と他地域を結ぶ動線、まちの玄関としての役割を担っています。
水辺…かつて、両国地域及び周辺には河川や掘割が張り巡らされ、人々の暮らしを支えていました。現在も、まちを歩くと、水辺とともに、下町らしい暮らしや生業を垣間みることができます。

2 文化とものづくり

下町の華やかな賑わいと人々の静かな暮らし、この両側面を背景に育まれた、相撲、浮世絵等の芸術文化、東広小路で生まれた食文化、そして産業の転換によって今に受け継がれるものづくりの歴史が、職住近接の地域社会を形成しています。

数多く点在する史跡・名所…相撲、浮世絵、寺社仏閣等、江戸時代に両国の地で花開いた歴史文化が今に継承されています。多くの史跡・名所は、歴史公園や高札案内等によって情報発信されています。
伝統工芸・地場産業の集積…両国地域には、袋物、桐細工、足袋といった伝統工芸、また布帛、印刷、鉄鋼等の地場産業が集積しています。これらは、小さな博物館・工房ショップなどで見ることができます。



3 暮らしと賑わい

江戸時代、両国橋を渡ると、参詣、相撲、花火と、一日中あふれんばかりの人々の賑わいがありました。現在も、地域の祭りや人々の暮らしの中に、地域を盛り上げる心意気、地域のつながりを育んできた懐の深さが息づいています。

地域活性化に向けた取り組み…牛嶋神社の祭礼等の伝統行事や、吉良祭や北斎祭り等の地域イベントや、観光協会主催のまち歩きツアー等の取り組みが継続的に実施されています。
シンボル性のある施設の集積…国技館、旧安田庭園、江戸東京博物館、両国駅駅舎といった両国の代表的な施設が駅北側に集積しています。
広域観光交通ネットワーク…地下鉄、JR、公共バスのほか、区内循環バスも運行しており、区内広域観光交通ネットワークが形成されています。

4 コンセプトと将来像

両国観光まちづくりグランドデザインのコンセプト

両国エリアの現況と地域特性を踏まえ、両国観光まちづくりの方向性を示します。

両国開花宣言

～粋に暮らし、粋に愉しむまち両国～

明暦の大火(1657年)を機とした両国橋の架橋と回向院の創建。震災と戦災からの復興。両国川開き(花火)や相撲の賑わい。北斎が生まれ、暮らしたまち。両国に花開いた食文化や芸術文化、ものづくりの技。下町両国で暮らす人々の強い想い。江戸から受け継がれる粋な文化、災禍を乗り越えてきた人々の心意気、水辺とともにあるいきいきとした暮らし、こうした両国の新たな開花に向けて、“粋に暮らし、粋に愉しむまち両国”を育てていきましょう。

隅田川と竪川、川開きの賑わいと水辺の記憶がひろがるまち

- 鎮魂と復興への想いから始まった、両国川開き(花火)の賑わいをつくる
- 夕涼みなど、暮らしに潤いを与えた水辺の記憶を観せる※1
- “橋”に重なる想いを物語として発信する

両国橋と回向院、受け継がれる鎮魂への想い、粋な文化と躍動感があふれるまち

- 両国橋架橋から始まる、まちの記憶と物語を魅せる※2
- 回向院や慰霊堂など、鎮魂から始まるまちの歴史を想う
- 江戸の粋な文化※3・ものづくりの伝統を伝える

過去と未来が織り成す暮らしぶりと“おもてなし”心意気がうれしい、懐が深いまち

- 暮らしぶりと“おもてなし”、両国の心意気を観せる※1
- 訪れる人を迎える、懐の深い“おもてなし”の心を育む
- 訪れる人とまちをつなぐ、まち歩きの素地を整える

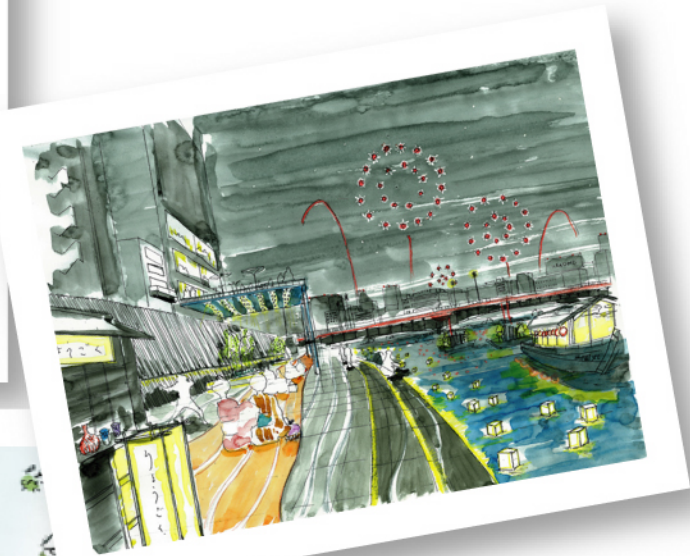
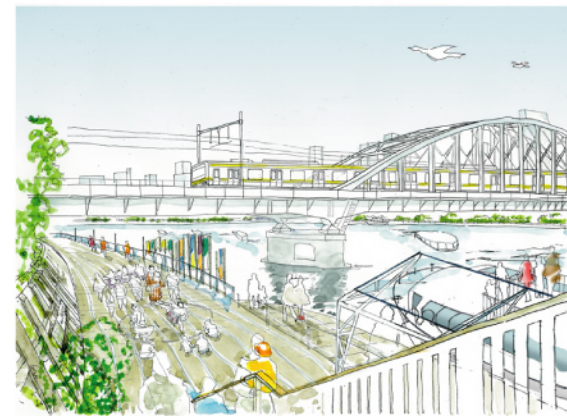
※1 「国の光を観せる」という「観光」の語源から、「地域の光を観せる」という意味で「観る」を使用しています。

※2 「地域の魅力を見せる」という意味で「魅せる」を使用しています。

※3 回向院で興行された勧進相撲、また北斎に代表される浮世絵等の江戸文化を示しています。

両国観光まちづくりグランドデザインの実現イメージ

将来イメージを共有し、観どころ、愉しみどころ、活躍のしどころがあふれ、粋に暮らすまちを育てていきましょう。



※イラストはあくまでイメージです。